

サイ・テック 知と技の発信

【342】

埼玉大学・理工学研究の現場

■月曜日の名司令塔

「つすべきであったと議論を白熱させている方もおられるのではな
いでしょうか。北米では、Mon
day morning quarterbackと
握りながら見ている方も多いこと
と思います。中には、あそこでは
メリカンフットボールの試合で何



たにやま ひさし 1965年生。91年
3月東京大学大学院修了。博士(工学)。
埼玉大学大学院助教を経て、16年4月から
現職。専門は地震工学。

地震動解析と予測 谷山 尚 准教授

が起きたか全部知ることができ
るという事柄は、名司令塔になれ
るということなのでしょう。

地震工学の話に移しますと、現
在、地震が起きた後であれば、地
震観測網の充実や解析技術の発展
によって、地震がどこで始まりど
のように広がっていったか、どこ
で特に強い地震波が発生し、その
結果どこで激しく揺れたかといっ
た、その地震に関する詳細な情報
を得ることが出来ます。

一方、今の地震学・地震工学で
は、地震が起る前に、このよう
な詳細な情報を手にすることはで
きません。現在、被害予測や安全
性審査のために地震動の予測がさ
れていて、日々の研究で予測技術
や恐らく予測精度も向上している
はずですが、断層の位置や広がり

などの限られた情報と、過去に起
きた地震が共通して持っている特
徴などに基いて、粗い予測をし
ているのが現状です。そのため、
揺れが大きくなる条件で何パター
ンか計算して安全性を検討するの
が一般的です。

■事前に生かす難しさ

私が所属する地震防災研究グル
ープでは、地震動の研究以外に地
震被害を軽減する研究も行ってい
ますが、平昌での悲喜入り混じっ
た結果を目にするにつけ、地震工
学に携わる者として、地震が起き
た後になって必要であった対策を
指摘するMonday morning
quarterbackになりがちです、そ
の時々手にする事ができる情報
の中で、取り得る地震被害を予
見し、適切に備えていくことの重
要性と、同時に、その難しさを改
めて認識させられるオリンピック
事前の予測の際に、地震後に得
てなっています。

先日、日本地震学会会長や原子
力規制委員会委員長代理も務めら
れた島崎邦彦先生(私の学生時代の
指導教官でもあります)の話を聞く
機会がありました。先生の検討結
果によると、地震後の詳細な解析に
基づいて導かれた関係式を、限ら
れた情報しかない事前の予測に用
いると、地震による揺れを過小評価
する可能性があるとのことでした。
事前の予測の際に、地震後に得
てなっています。

埼玉経済

企業、団体、商店街などの話題や情報をお寄せください
TEL 048-7995-9161 FAX 048-6653
ikeizai@saitama-np.co.jp